



# 山陽スピリット ニュース No.19

2019(令和元)年12月12日

発行：学校法人 山陽学園 広報・山陽スピリット推進室

## キャンパスは緑濃く 上代皓三先生の願い

山陽学園短期大学名誉教授

村岡知子

山陽学園短期大学創立50周年、山陽学園大学創立25周年を祝って、2019年7月1日に同窓会の主催で、総会に合わせて祝賀会が開かれました。此処にまみえた方々と、この50年を共に振り返ることができたのは、大変感慨深いものでした。50年の歴史おめでとうございます。この間の発展に、多くの方々のご尽力とご奉仕のあったことも感謝を込めて回想することが出来ました。これからもますますの発展を心からお祈りいたします。

さて、私事になりますが、誇らしい歴史を持つ山陽学園を初めてお訪ねしたのは、昭和43年3月でした。山陽女子中学・高等学校の校門に立ち、伝統ある女学校の雰囲気に触れることができました。戦後、公立共学校の新しい教育改革の第一歩として、テストケースのような粗雑な教育の場で育てられてきた私は、この瞬間、山陽学園に培われてきた教育の伝統と威厳を感じました。同時に、教育は静かな閑静なところで進められなければならない、落ち着いた



山陽学園短期大学の開学式 -1969(昭和44)年5月17日

環境を守らなければならないのだと強く思いました。

短期大学の初代学長となる上代皓三先生は、新設される短期大学の予



定地に誘って下さいました。「山陽学園短期大学建設予定地」との看板が一枚立つ、その丘陵には梅の木が一本まだ花を咲かせていました。此処は、季節の移ろいにそって黄色の河骨こうほね(スイレン科の多年草)が咲き、時には、鶴や雉、シラサギ、勇壮なトンビなどが飛び立つ自然豊かで静かな丘陵でした。

昭和44年3月、山陽学園短期大学は新しい校舎で開学を迎えました。敷地内に、ひと棟の白い校舎(A棟)は寂しく見えてましたが、その後、B棟、C棟、図書館棟等が建ち並び、キャンパスは学生達の声と共に賑やかで、育ち始めた緑の木々とともに活気が出てきました。



A棟 -1969(昭和44)年

上代皓三学長は、キャンパス内をよく巡回され、学生達に声を掛けられ、色々の発見をされました。そしていつも「キャンパスは緑で静かでなければいけない」と言われていました。校舎や設備の充填はもとより、学生達の教育環境、思考の場は、緑したたる静かなキャンパスをと考えてくださいました。



満開の花水木 (C棟南側)

学校を表す徽章として、1900年代初頭の山陽女子校では、制服の袴の裾にオリーブグリーンラインを刺繍で縫い付けていました。そして、昭和9年から制服は、「白線一本入りの紺色のセイラーのワンピースにオリーブグリーンのネクタイ」となり、山陽学園のスクールカラーは、オリーブグリーンとして定着していきました。スクールカラーの「オリーブグリーン」は、緑溢れる閑静なキャンパスを維持することと共に、今も大切に守られていると言って良いでしょう。

ところで、「オリーブグリーン」と言えば、皆さんは平井キャンパスの体育館の近くにオリーブの木があることをご存知ですか。これは、短期大学のあ一期生の方が植樹して下さったものです。

さて、奇しくも短期大学が創立5年を迎えた年、上代学長は75歳を迎えられました。その記念に、四季を通して楽しめる花水木の植樹をすることにしました。花に続き緑の葉が茂り、紅葉し、白雪の小枝で可憐な紅の実が小鳥たちのさえずりを誘う花水木は、平井キャンパスに相応しいと感じられました。折しも朝日新聞の「天声人語」で、アメリカの花水木が日米友好の木として記されるや、世には花水木の大きなブームが起こり、苗木の入手も難しくなっていました。友人を経て和歌山からようやく届いた花水木の苗木10本は、あまりにもか細く小さく、上代先生は次のような歌をお詠みになりました。

“心ありて 君の植ゑたるハナミヅキ  
わが生きて見む 花ならなくに”  
『吉備七年』白玉書房 昭和55年刊

その植樹から5年後に、上代先生は育った花水木

を詠んでいらっしやいます。

“花水木 もみぢの色の 深きにも  
こころしむ今朝の 雲のながれて”  
『上代皓三遺歌集』石川書房 昭和60年刊

移植した地になじんだのか、小さな花水木の生長は良く、10本の木々が見事に育ちました。苗木を送って下さった方の温かな選別があったことも忘れてはなりません。そのおかげで、花水木の花は柔らかな淡い色で、今も人々を和ませてくれています。

満開の花水木の下で、I. S. A. (International Student Association) の学生達が県内の留学生や本学の新入部員を招き、パーティーを開いたり、語学研修ホストの来校歓迎会にも愛用したり、平井キャンパスの花水木は、国際交流にも大いに役立ちました。

そして、上代皓三先生のもう一つの大きな「緑の贈り物」は、昭和57年に附属幼稚園の東斜面を、子供達が転げ降りて喜ぶ緑の芝生のスロープのお山になさったことです。今では大きな滑り台など遊具も設置され、広い空に大きな夢をはぐくむ幼稚園自慢の大切な「緑の宝物」となっています。

あの静かだったお花畑は、今や校舎、図書館、学生会館、クラブハウス等21の建物が建ち並び、多くの方々が丹精込めて植えて、育てて下さった緑の木々に囲まれた素晴らしいキャンパスになりました。

「キャンパスは緑濃く」という上代皓三先生の願いは、これからも末永く引き継がれていくことでしょう。平井キャンパスの緑が、「学問への探究心」と「自然を愛おしむ心」を育ててくれることを心から祈っています。



緑の芝生のスロープと遊具 (附属幼稚園)